

VII 野外活動や災害後の泥水あるいは

がれき等撤去作業に関連する感染症の対策

1 注意を要する感染症



破傷風，レジオネラ症，レプトスピラ症
蚊媒介感染症（日本脳炎など），ダニ媒介感染症（つつが虫病など）




2 主な症状，対策



（洪水による災害時，泥流や土壌，がれき等の撤去作業に関連する感染症）

感染症	破傷風	レジオネラ症	レプトスピラ症
知っ おこ う	<p>破傷風は，予防接種を受けることで免疫をつけることができます。</p> <p>昭和43年頃からは，定期予防接種に破傷風のワクチンが含まれており，30代までの多くの方は，破傷風の免疫を持っています。40代以上の方は免疫が十分ではありません。</p> <p>破傷風菌は土壌中に広く常在し，傷口から体内に入ると破傷風を発症します。</p>	<p>「レジオネラ属菌」は，自然環境（湿った土壌や河川，湖沼及び池などの淡水中）に生息していますが，人工環境（空調用冷却塔や循環式浴槽など）の水が停滞あるいは循環する所（ヌメリ等）にも生息します。</p> <p>レジオネラ属菌を含んだエアロゾル（霧状の水）を口から吸いこむことで感染します。</p>	<p>感染した動物から直接的，もしくは感染した動物の尿によって汚染された土壌や水から間接的に感染します。</p> <p>汚染された土に触れたり，水の中を泳いだり歩いて感染することが多いようです。</p> <p>汚染された水や食物の飲食による事例もあります。</p>
症 状	<p>顎や首の筋肉のこわばりや口が開けにくくなり，全身のこわばりや筋肉のけいれんが occurs ます。</p>	<p>「レジオネラ肺炎」型は，全身の倦怠感，筋肉痛，頭痛，高熱，腹痛，嘔吐，意識障害等が occurs ます。</p> <p>「ポンティアック熱」型は，発熱，悪寒，頭痛等が occurs ます。</p>	<p>発熱，悪寒，頭痛，筋痛，腹痛，結膜充血が occurs ます。</p> <p>発病後第4～6病日に黄疸，出血傾向，腎臓などの臓器が障害を受ける重症型があります。</p>
対 策	<p>傷口に土が付いたり，がれきや釘などでけがをした場合には，傷口をよく洗い，医師の診察を受けましょう。</p> <p>作業には，長袖・長ズボン・手袋（皮手袋）の上に厚手のゴム手袋をしたり，厚底の靴を履きましょう。</p> 	<p>「レジオネラ菌属」は，20～50℃で繁殖し，36℃前後が最も適しています。熱に弱いため70℃以上では1分以内に死滅します。</p> <p>冷却塔などの設備や器具は定期的に点検，清掃を行い，ヌメリが発生しないようにしましょう。</p>	<p>防護のため厚底の長靴や厚手の手袋を着用しましょう。</p> <p>屋内外に棲息しているネズミは，感染の仲介になる可能性があります。あり要注意です。</p> <p>活動後は，着替え，入浴，手洗いをしましょう。</p> 

(避難所や災害現場など長時間屋外での作業に注意を要する感染症)

感 染 症	蚊媒介感染症 (日本脳炎など)	ダニ媒介感染症 (つつが虫病など)
知 っ て お こ う	<p>蚊媒介感染症とは、感染蚊に刺されることにより感染します。蚊媒介感染症のひとつである日本脳炎は、ワクチン接種が予防に有効です。その他の蚊媒介感染症は、有効なワクチンが無いため、「蚊を発生させない」「蚊に刺されない」ことが重要です。</p> <p>避難所などのゴミ集積場や水田、池、沼などの水たまりなどでは、蚊が発生しやすくなります。</p>	<p>つつが虫病は、ダニ媒介感染症のひとつであるツツガムシという小さなダニに刺される(吸着される)と菌が体内に入って発症します。</p> <p>林や草むらで感染することが多く、ダニの活動する春から初夏と秋から初冬が感染しやすい時期です。</p> <p>ヒトからヒトへの感染はなく、菌を保有する有毒ダニの幼虫に吸着されることにより感染します。</p>
症 状	<p>数日間の高熱、頭痛、嘔吐等が現れ、その後急激に、光への過敏症、意識がなくなり、けいれん等がおこります。</p>	<p>発熱、刺し口、発疹、激しい頭痛、悪寒、全身倦怠感、食欲不振</p>
対 策	<p>《 蚊の発生を抑えましょう 》</p> <p>蚊の種類により生息地域は異なりますが、水たまり(放置されたブルーシート、古タイヤ、空き缶、ペットボトルに溜まった水等)を除去、清掃しましょう。詰まった排水溝の掃除、下草を刈りましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">蚊・ダニ共通対策</div> <ul style="list-style-type: none"> ●肌の露出を少なくしましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 長袖・長ズボンを着用しましょう ● 足を完全に覆う靴を履き、サンダルなどは避けましょう。 ● シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れましょう。 ● 帽子・手袋を着用し、首にタオルを巻きましょう。 ● 明るい色の服を着ましょう。 ● 虫除け剤を使用しましょう。 	<p>DEET (ディート) という成分を含む虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われています。</p> <p>草の上に腰をおろしたり、寝転んだりしないようにしましょう。</p> <p>脱いだ上着やタオル・帽子などを草の上に放置しないようにしましょう。</p> <p>活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認しましょう。特に、首、耳、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏などがポイントです。</p> <p>《 ダニに咬まれた時 》</p> <p>発見した時は、無理に引き抜こうとせず、医療機関で処置(ダニの除去、洗浄など)をしてもらいましょう。</p> <p>ダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱などの症状が認められた場合には医療機関を受診しましょう。</p>